

ムーブメント 2020年度本明記念賞の 選考経過と講評



本明記念賞選考委員長 大木桃代 (文教大学)

本年度の本明記念賞は、機関誌“Journal of Health Psychology Research” Vol. 32 (No. 1, No. 2) に掲載された原著論文4編を対象として選考されました。

まず1次選考として、選考委員の投票によって審査が行われ、受賞候補論文が以下の3編に絞られました。①島井哲志先生他2名による「日本人成人の発達段階による人生の意味の変化—得点レベルと関連要因の検討—」、②春田悠佳先生他1名による「子宮頸がん検診受診の行動変容ステージを説明する認知変数—行動実行モデルを用いた検討—」、③岡田ゆみ先生による「壮中年期の人びとの飲酒動機と問題飲酒に関する研究—性別によるDMQ-RとAUDITの検討—」(掲載順)。

次に、この3編の論文を対象として2次選考が行われました。審査の観点は従来と同様、①論文展開の論理性、研究の方法・技術の独創性、②成果の学会・学界への貢献、③成果の健康心理・教育・保健・福祉実践への寄与、の3点です。16名の選考委員が各観点100点満点、合計300点満点で評価し、それに基づいて慎重に選考いたしました。いずれも健康心理学への貢献が大きく優れた内容の論文でしたが、全員の総合評価が最も高かった、島井哲志先生・有光興記先生・マイケル・F・スティーガー先生3名の共著による「日本人成人の発達段階による人生の意味の変化—得点レベルと関連要因の検

討—」(Vol. 32, No. 1, 1-11) が受賞論文として推薦され、理事会において承認されました。

本研究は日本人の「人生の意味」について、「人生の意味尺度」の因子構造を検討し、各下位尺度間およびウェルビーイングなどとの関連を、男女各1000名、計2000名を対象に発達段階別に検討した論文です。幅広い年代を対象者として生涯発達の視点から人生の意味や意義の理解の程度を検討している点、デモグラフィック変数との関係を網羅的に検討して分析した点、国際比較可能な方法で測定し比較文化的な観点から検討した点などが高く評価されました。特に研究計画の緻密さや分析の枠組み、考察の論理的展開などについては、他の研究者の参考になる質の高い論文であると多くの審査者からコメントされております。また、幸福感に代表されるポジティブな側面から心身の健康増進を目指すアプローチを考えた点も、健康心理学における重要な基礎的知見となる論文であるといえます。一方で、発達段階の検討が主目的であるにもかかわらず、横断的な手法で相関研究である点が課題として指摘されました。この指摘を踏まえ、さらなる発展が期待されます。

今年度は残念ながら、1次選考の対象論文数があまり多くありませんでした。若手研究者をはじめ多くの会員の皆様から、ぜひ積極的に研究成果をご投稿いただきますよう、よろしく願いいたします。

大会レポート

一般社団法人日本健康心理学会事務局長・神奈川大学 山蔦圭輔

2020年11月16日(月)から11月22日(日)を会期とし、一般社団法人日本健康心理学会第33回大会が、初のバーチャル大会として開催されました。今年に入り、COVID-19の影響を受け、それまで予定しておりました、東北学院大学における大会開催を見合わせ、今回のバーチャル大会の準備に入りました。通常の大会を開催すべく準備を進めていただきました大会準備委員長の堀毛裕子先生、事務局長の金井嘉宏先生はじめ、精力的に準備をお進めいただきました委員の先生方に深く感謝申し上げます。また時が経ち、東北のすばらしい環境の中で会員一同が集い、健康心理学研究ならびに実践の成果が数多く発信されることを願っております。

さて、第33回のバーチャル大会を開催するにあたり、本学会副理事長の岡安孝弘先生を中心に準備が進められました。大会テーマを「新生活様式と健康心理学」と題し、理事長講演のほか、4つのシンポジウム、1つのテクニカルワークショップ、本明記念賞講演、ヤングヘルスサイコロジストの会企画などをオンデマンド形式で配信致しました。多くのみなさまに視聴いただけましたこと、喜ばしく振り返っております。また、92件の一般演題をお寄せいただき、会員のみなさま方のご協力の中、盛会として閉じることができましたこと、改めてお礼を申し上げます。

今回、会員以外でも視聴可能なコンテンツを用意しており、健康心理学の裾野を広げることができる

千載一遇のチャンスとも感じております。多様な研究・実践領域でご活躍している人々が一丸となり、この健康心理学という領域をこれまで以上に発展させることができると願っております。

また、バーチャル大会ということで、思わぬうれしい収穫もあったように思えます。それは、心理学領域で学ぶ学生をはじめ、大会など学会の催しに参加することへのハードルを高く感じていた方々が、より気軽に健康心理学に触れることができる良い機会になったということです。実際にこうした声は多数寄せられており、学生からの声を聞くと、次世代のまた次の世代の健康心理学を支える人々と出会う場を提供することも、学会としての重要な任務であると実感致します。また、実践家として活動なさっている方からのご意見をうかがうと、学会として価値のある情報を発信し続けることの大切さを改めて実感致します。多様な専門性や立場、想いを抱えた人々が集い学び成長できる場を、健康心理学という枠組みで創造できることを強く望んでおります。

さて、第34回大会はお茶の水女子大学(大森美香準備委員長)で開催予定です。COVID-19と戦い、共存することが求められる中どのような形式で開催するかなど不透明ではございますが、詳細が決まり次第、随時お知らせ致しますので、引き続き会員のみなさまのお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

Health Psychologist 2020.11 ヘルス・サイコロジスト NO. 83

発行	2020年11月30日
編集・発行	日本健康心理学会
本部事務局	日本健康心理学会本部事務局 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター
TEL	03-6824-9375
FAX	03-5227-8631
ホームページ	http://jahp.wdc-jp.com/
制作	株式会社国際文献社

新入会員の募集 一多くの方にお勧めください

日本健康心理学会は、現在1,600名の会員で構成され、毎月さまざまな方から入会のお申し込みをいただいております。本学会は、専門の研究者—心理学、医学、教育学、社会福祉学、看護学、栄養学、体育学、公衆衛生学、生物学などの領域—はもちろん、健康心理学、すなわち心と体の健康問題に関係のある仕事をしている方々も入会できます。企業や小中高校の先生方も入会しておられます。

入会されますと、年次大会(年一回)、セミナー、研究会への参加ができ、ニューズレター「ヘルス・サイコロジスト」(電子版)および学会機関誌「Journal of Health Psychology Research」(電子版)の閲覧ができます。入会金3,000円、年会費7,000円です。

入会ご希望の方には、左記ホームページへのアクセスをお勧めください。

〈機関誌の原稿募集〉

「Journal of Health Psychology Research」の原稿(和文・英文)を随時募集しています。学会ホームページの電子投稿システムより、ご投稿ください。